

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	東條美智子 坂本美恵, 平山隆恵
学力向上推進員	教諭(教務課長) 教諭(学部長)	久米清一 (小)福崎久美 (中)四宮美和子 (高)伊井 敏
委員	指導教諭(企画総務課長) 教諭(進路指導主事) 教諭(教務主任) 教諭(企画総務課 研究・研修担当者)	山田千代 宮城利恵 (小)中村敏恵 (高)林朱美 谷口夏紀

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(I・II類型) 児童生徒の状況		
よさ	場面や相手が限定されるが, 友だちに対して自分から関わったり, 思いやりのある言葉で話しかけたりすることがある。興味関心のあることや自信を積み上げていくことで, 目標に対して意欲的に取り組むことができる。	課題 生活経験が少ない児童生徒にとって, 状況を判断しながら適切に人と関わることに難しさが見られる。社会経験が少なく, 狭い人間関係の中での関わりに限定されていることが多いこと, 身体的な不自由さがあることで, 全般的に受け身になりやすい。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
< I 類型 > 状況に応じて自分から話しかける会話力を身につける。 < II 類型 > 話を正しく受け止め, 人にわかるように応えたり(伝えたり), 行動に移したりできる。		コミュニケーション課題に関する個別の指導計画の各学期の目標で, 「目標に十分達した」, 「目標に達した」という評価を80%以上とする。
		達成状況
		評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標
全教員が各グループごとに事例研究を行うことを通して, コミュニケーション力育成のための仕方を学び, 指導力を高める。		①事例研究に関する研修を3回実施する。 ②キャリア教育支援プログラムの育てたい力や卒業後に必要とされる力を考慮して目標を設定する。 ③グループ内の児童生徒1~2名に対して事例検討会(専門家のアドバイスも含む)での意見を基に指導を見直す。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(Ⅲ～Ⅳ類型) 児童生徒の状況

よさ	素直に気持ちを表し、人との関わりを好む児童生徒が多い。嬉しいことや不快なことを、表情や身体の動き、発声など、児童生徒なりの方法で表現することができる。好きなことがある。	課題	体調面が不安定な児童生徒が多い。自分なりの表現方法で伝えているが、周りの人にわかるように伝えることに難しさが見られる。視覚障がいなどにより、周りの状況を把握することが難しい。受け身的なコミュニケーションが多い。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
<p><Ⅲ・Ⅳ類型></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人からの関わりや環境の変化を受け止めて表情や発声、身体の動き等で表す。 ・発声や動作、VOCA(音声出力会話補助装置)で自ら伝える。 		<p>コミュニケーション課題に関する個別の指導計画の各学期の目標で「目標に十分達した」、「目標に達した」という評価を80%以上とする。</p>	<p>評価</p>
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
<p>全教員が各グループごとに事例研究を行うことを通して、コミュニケーション力育成のための仕方を学び、指導力を高める。</p>		<p>①事例研究に関する研修を3回実施する。 ②グループ内の児童生徒1～2名に対して事例検討会(専門家のアドバイスも含む)での意見を基に指導を見直す。 ③年に2回、一人ひとりの児童生徒についてケース会を持ち、目標や指導方法等について関係者間で協議し、共通理解を図る。</p>	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			

